

「建交労とうきょう」はいつでもみなさまからの記事や写真を待っています。
 (メール) tohonbukenkouro@smile.odn.ne.jp
 ホームページ
 http://www.kenkouro.com/

建交労 のとうきょう

建交労東京都本部機関紙

発行所
 全日本建設交通一般労働組合東京都本部
 〒135-0048
 江東区門前仲町1-20-3
 東京建設自労会館7階
 電話 03 (3820)8644(代)
 fax 03 (3820)8646
 編集発行人 松田 隆浩
 1部15円組合費に含まれる(〒60円)

首都圏トラック部会トラックの日行動開催!

首都圏(東京・埼玉)トラック部会は「トラックの日」行動を10月9日、「大宮トラックステーション」にて開催し、東京・埼玉トラック部会、中央本部から組合員19名と医療生協さいたまより保健師の方5名が参加しました。また、業界誌や、いの健(働くもの)のちと健康を守る姿からも取材をいただきました。トラックの日行動では、トラック運輸産業において近年、健康障害による交通事故などが急増していることからトラックステーションを利用するトラックドライバーの長時間・過密連続運転を守りたいが休憩する施設がない」「休みがなかなか取れない、残業代が払わ

れていない」など切実な実態を聞くことができました。トラックステーションは駐車できるスペースが限られており、頻繁には出入りがありませんが、健康チェックを13名が受診、春闘アンケートも25枚を集約、宣伝グッズも300個配布しました。健康チェックを終えた保健師からは「例年に比べて血圧が高い人はあまりいなかったが、やはり、たばこや飲酒を控えるべき。」と報告がありました。今後は集約した健康チェックや春闘アンケートのデータを活用し、多くが未組織労働者であるトラック運輸産業での組織拡大と労働環境改善をめざして奮闘していきます。【東京トラック部会 事務局長 中島 均】



大宮トラックステーションにて



医療生協さいたま保健師さんによる健康チェック

全国青年部反核トラックキャラバン



カンパを下さった経営者の皆さん、組合員の皆さん心から感謝申し上げます。青年部は世界から核兵器が無くなる日まで、核兵器廃絶をうったえ続ける決意です!

7月30日(火)建交労全国青年部は第24回目となる反核トラックキャラバンを開催しました。来年は被爆から75年、かつ、NPTR再検討会議発足から50年を迎えます。核保有主要5ヶ国に核軍縮の履行を迫る、或いは核兵器禁止条約の発効に向けて条約への批准を世界に求めるなど、核兵器廃絶への世論は一層高まる年になります。出発式の会場となった都庁前には、早朝から暑い日差しが降り注ぐ中、組合員や全労連青年部などの友誼団体を含め総勢38名の仲間が集まりました。主催者の全国青年部を代表して、菅野副部長が挨拶し、核兵器廃絶への強い意志を

持つて広島まで向かう決意を表明されました。続けて、東京地評青年部の千保議長、首都圏運輸集団交渉団の中島団長、建交労東京都本部の松田執行委員長から来賓挨拶を頂きました。休日返上でトラックを運転して頂いたドライバーの皆さんに、心から感謝申し上げます。神奈川県川崎市役所前で開催された核兵器廃絶国際署名宣伝行動では、神奈川県南支部の仲間が加わり、1時間で24筆の署名を集約しました。自転車に乗った女性も、自転車を止めて「核兵器は絶対反対。頑張ってくださいね。」と、署名用紙に記入しながら声をかけて下さいました。核兵器廃絶に向け引き続き奮闘する決意です。【東京青年部】

建交労東京学校第5期 「企業分析・財務諸表の見方」開催

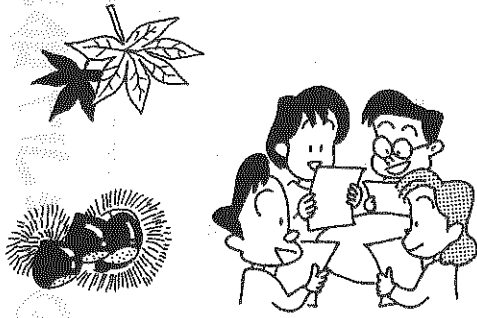


建交労東京学校第5期「企業分析・財務諸表の見方」

建交労東京都本部は、5期目となる建交労東京学校「企業分析・財務諸表の見方」を開催しました。労働組合が要求をかけた経済闘争をし、団体交渉の場で賃金や手当などお金の話題について討議する上で、会社から提出された決算書を分析する力を持つ事はとても大切です。

9月14日(土)、「企業分析・財務諸表の見方」と題した学習会には17名が参加し、約3時間半、数字とにらめっこをする、たつぷりと濃厚な時間を過ごしました。講師の清水文雄都本部執行委員は、自ら企業経営を担う実績や、支部の委員長時代に経営分析や職場政策を作成した、貴重な経験の持ち主です。大手企業を含め複数の企業の貸借対照表、損益計算書をあらかじめ分析したオリジナル資料を手元に、学習会はスタートしました。どの数字に着目し、どのように経営の安定・不安定の是非を判断するのか。着目すべき数字とその数字をもとに導き出す指標や割合、比較すべき基準、用語の解説など、多岐に渡る内容を、的確に、かつ、わかりやすく解説されました。また、ある企業の決算書について複数年度を比較検討し、変化を読み取る、業績の良し悪しの傾向を見抜く、今後の見通しを予測する手法など、様々な角度から学ぶことが出来ました。学問的要素が強い分野のため、当然ながら修得には更なる学習が必要ですが、その事の理解を含め大変有意義な時間であったと感じます。

企業に限らず、組織を継続させる事は本当に困難の連続ですが、そういう意味では、特に厳しい経営状況にさらされている中小企業の社長さんには、敬意を表するものです。清水執行委員は「中小企業において、組合が企業経営の分析をする力、職場政策を作成する力を持つ事は、とても重要。働く者の立場から、情勢や業界の変化など社会的・客観的観点で企業を捉え、労働条件改善だけでなく、時には会社の危機に対し労働者に痛みを押し付ける事なく乗り越える策を事前に立案する事を可能にし、やがて経営者と組合とが深い信頼関係のもとで本来の意味での両輪の役割を果たす事に繋がる。」と改めて強調します。今後も、各支部・業種部会で、繰り返し学習し理解を深める決意です。【建交労東京都本部 書記次長 笹原 和樹】



原水禁世界大会(広島)に参加して



工藤さん(写真左) 武田さん(写真右)

8月7日から3日間、原水爆禁止2019年世界大会長崎に参加しました。会場は、長崎市民会館で開会総会が開催され、22カ国87名のNGO代表・政府・国際機関代表と、全国からの仲間約4000名が参加しました。開会の挨拶では、今年核兵器禁止条約の批准国にボリビアが加わり、半分の25カ国に達したことが報告され、会場からは大きな拍手が起こりました。続けて日本からのうたったえでは「今、唯一の戦争被爆国の責任として、政府は一刻も早く核兵器禁止条約に署名、批准してください。それを世界に広げるリーダーシップを発揮することを求めます。」と力強い発言がありました。2日目は、ホテルを出発し長崎歴

史文化博物館ホールに向かい分科会に参加しました。「憲法9条を守り、非核平和の日本を」と題した日本反核法律家協会事務局長の大久保賢二氏の講義がありました。「核保有数が、これからの10年間で大幅に増加する。日本は核兵器のない世界の実現に向けて、全世界に発信しなければならぬ。また、安倍改憲の危険性を改めて広く知らせ、憲法を守る、憲法9条を破棄し、自衛隊の明記を狙うな

組合掲示板

- 11月 2日(土) ~生公連総会
- 11月 7日(木) ~8日(金) ~建交労 秋の中央行動
- 11月10日(日) 15時~東京地評青年協 東京ジャック/新宿駅東口アルタ前
- 11月17日(日) ~18日(月) ~建設政策研究交流集会
- 11月23日(土) ~24日(日) 中央本部20春闘討論集会/サンパレー富士見
- 12月 8日(日) 10時~建交労東京都本部春闘討論集会/トラック健保会館(市ヶ谷駅)

【2019年】

- 1月11日(土) 14時~20年新年旗開き/トラック健保会館(市ヶ谷駅)
- 1月25日(土) ~26日(日) 建交労第21回中央委員会

その後には近くの、原爆資料館に行きました。広島・長崎に原爆が落とされた時からの出来事が詳しく展示してありました。最後にこの3日間を通じて、被爆74年の今年、被爆者の平均年齢は82歳を超えたというところで、今後は我々の世代、若い世代と語り継いで「死ぬまで核兵器廃絶を訴えていかなければならない。」と思いました。【神田支部 武田行央】